

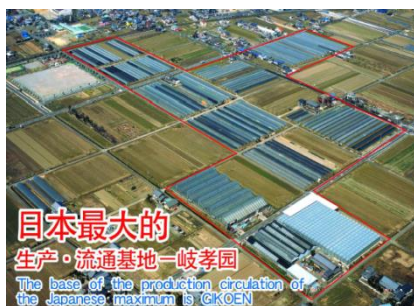
株式会社 岐孝園

～世界一の シェアをめざす～



加藤孝義代表

岐孝園の創業は昭和39年。平成4年に法人化し、翌年関連会社として(有)さぼてん村を設立しました。主な商品は同社開発のプティサボテンと観葉植物。サボテンの幅広い啓蒙と普及をめざし、常に新しく、楽しい商品を開発し続け、全国の市場(約60社)や量販店、小売店へ出荷しています。現在では日本一の販売、世界一の栽培面積を誇る規模となっています。



現在の保有施設はガラス温室10棟3400坪、パイプハウス150棟25000坪、サボテンの保有数は500万本。



さぼてん村の殆んどがパイプハウスです。小さなサボテンから1m以上の大きなサボテンまで栽培しています。他には多肉植物やアロエがあります。



加工・出荷温室では、シンプルな鉢や可愛い鉢に、パートさんが愛情をこめて作っています。上手くサボテンを、寄せ植えにするポイントは「センス」と「器用さ」です。

～サボテンの力～

サボテンは品種数が何千種類もあるといわれています。サボテンを愛する岐孝園の専門的な知識や、サボテンのもつ不思議な力、さぼてん村で生産・販売している代表的な品種等をホームページで紹介しています。

<http://www.saboten.co.jp/top2/sabo/top.html>

～感動の商品を世の中へ～

サボテンは形やトゲを觀賞しますが、花が咲かない、咲いても枯れてしまう、鉢が可愛くない、テーブルに砂や水がこぼれるといった苦情を克服し、開発したのが、コーヒーカップの形をした鉢に、ドライフラワーを挿したサボテンを植え込んだ「プティサボテン」です。

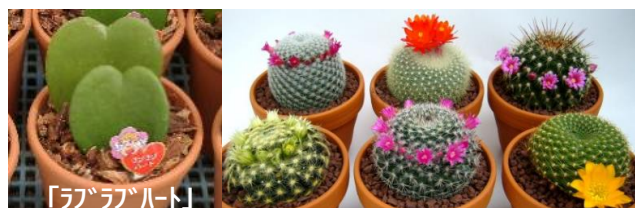
サボテンにチリ原産の開閉自在のドライフラワーを付け、鉢砂には糊を混合して鉢から砂がこぼれないような工夫をしてあり、従来のサボテンの欠陥を全てクリアした画期的な商品は、女子高校生や一般消費者の間で大好評を得ました。

岐孝園では、従来は砂で育てると考えられてきたサボテンを水田で栽培しています。濃尾平野の粘土質土壌を利用して栽培することによって、適度な水分と肥料が供給され通常の3倍速く生育し、コスト削減にもつながっています。

21世紀の新しい植物として開発したのが、サボテンをバージョンアップ(進化)させた『チクリン』です。10年間の改良に取り組み実用化のめどがつかしました。

枯れたり、しぼんだり、腐ったりしないし、高温にも強く、マイナス5度の低温にも耐える植物の開発に取り組みんでいます。

また、サボテンだけでなく、多肉植物や観葉植物、花鉢まで、世界各地からも積極的に優良な商品を導入し、コストを削減するとともに、消費者に喜ばれる商品開発を目指しています。



～最後に～

岐孝園では、ガラスハウスはプールベンチ式のムービングベンチを導入しています。養液は循環式でいち早くMPSに取り組みました。

MPSを普及するためには、MPS加入のメリットを実感することが必要です。短期的、長期的な目標をたてて発展し、生産者の組織や、関連組織を含めて、発言力を強め、MPSの位置づけを高めていくことに期待しています。